博 士 前 期 課 程

シ　ラ　バ　ス

（令和２年度）

2020

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は，本学の「目的及び使命」を理解し，本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」,「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ,「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質，感性及び価値観を身につけ，その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し，地域社会，日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し，説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の３つの構成要素及びその能力

＜　自ら学ぶ　＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し，説明する力

世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。

＜　自ら考える　＞

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

＜　自ら道をひらく　＞

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

			初年領域：Basic		中上級領域：Intermediate and Advanced	
			1	2	3	4
自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の倫理観をもって，倫理的な課題に向き合うことができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。
		A-2：世界の現状を理解し，説明する力	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状を概説できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を，自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を，複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を総合的に理解し，国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
	自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的な考察を通じて，課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて，課題に対し，具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに，その限界を認識することができる。
		A-4：問題発見・解決力	事象を注意深く観察して，解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し，助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し，複数の解決策を提示した上で，問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し，独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	自ら道をひらく	A-5：挑戦力	新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て，準備することができる。	責任と役割を担い，新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い，あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
		A-6：コミュニケーション力	親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い，他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し，ときに強い影響を与えることができる。
		A-7：リーダーシップ・協働力	集団の活動において，より良い成果を上げるために，お互いを尊重することができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，指導者のもとで他者と協働し，作業を行うことができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，指導者として他者と協働し，作業を行うことができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，他者と協働し，作業を行うとともに，指導者として他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
		A-8：省察力	自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り，分析できる。	学修状況を自己分析し，その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を，今後の学修に活かすことができる。

―目　次―

国際情報専攻

必修科目

国際情報論特講……加藤　孝治……2

国際（関係）・政治コース

戦略情報論特講……川中　敬一……5
危機管理論特講……川中　敬一……8
組織倫理論特講……坂井スオミ……11
現代政治学特講……井手　康仁……14
国際法特講……安藤　貴世……17
国際政治論特講……庄司　貴由……20
国際協力論特講……池上　清子……23
国際関係論特講……草野　大希……26
行政論特講……関根二三夫……29
日本政治史論特講……瀧川　修吾……32
アフリカ開発論特講……未　開　講
グローバルヘルス論特講……未　開　講
国際メディア論特講……近藤　大博……35
現代中国政治論特講……未　開　講
日中比較社会論特講……髙綱　博文……38
環境生態論特講……村井　英紀……41
市民社会論特講……未　開　講

経営・経済コース

経済理論特講……後藤　康雄……44
経済理論特講……川又　　祐……47
国際経済政策論特講……前野　高章……50
近代日本社会変動論特講……小峰　和夫……53
グローバル経営戦略論特講……階戸　照雄……56
現代ファイナンス論特講……建宮　　努……59
アカウンティング論特講……未　開　講
フィナンシャル・アカウンティング論特講…丸森　一寛……62
マネジメント・アカウンティング論特講……丸森　一寛……65
マーケティング論特講……雨宮　史卓……68
人材マネジメント論特講……加藤　孝治……71
多国籍企業論特講……諸上　茂登……74
流通ビジネス論特講……小林二三夫……77
ビジネス法特講……中村　　良……80
ファミリービジネス論特講……未　開　講
ファミリーガバナンス論特講……階戸　照雄……83
事業創造論特講……中村裕一郎……86
事業承継論特講……曽根　秀一……89
中小企業論特講……未　開　講

専攻共通科目

調査分析特講……田中堅一郎……92
統計基礎Ⅰ……荒関　仁志……95
統計基礎Ⅱ……荒関　仁志……98
ゲーム理論……荒関　仁志……101

文化情報専攻

必修科目
文化情報論特講……保坂　敏子……108
文化研究コース
比較文学特講……秋草俊一郎……111
メディア文化論特講……榎本　正樹……114
翻訳論特講……井上　　健……117
日本文化論特講Ⅰ……近藤　健史……120
日本文化論特講Ⅰ……野口　恵子……123
日本文化論特講Ⅰ……小田切文洋……126
日本文化論特講Ⅱ……長谷川正江……129
日本文化論特講Ⅱ……山﨑眞紀子……132
東アジア文化論特講……清水　　享……135
中国語圏文化論特講……呉　　川……138
ヨーロッパ言語圏文化論特講……秋草俊一郎……141
英語圏文化論特講……秋草俊一郎……144
児童文学特講……猪野　恵也……147
言語教育研究コース
言語教育学特講……島田めぐみ……150
言語学特講……保坂　道雄……153
異文化間コミュニケーション論特講……西田　　司……156
社会言語学特講……石部　尚登……159
第二言語習得論特講……田嶋　倫雄……162
言語教育工学特講……保坂　敏子……165
言語教育デザイン論特講……豊田　哲也……168
日本語学特講……小野　正樹……171
日本語教育方法論特講……島田めぐみ……174
英語学特講……ラングハム　C.S.……177
英語教育方法論特講……ロックリー・トーマス……180
専攻共通科目
調査分析特講……田中堅一郎……183
統計基礎Ⅰ……荒関　仁志……186
統計基礎Ⅱ……荒関　仁志……189
ゲーム理論……荒関　仁志……192

人間科学専攻

必修科目

人間科学特講……田中堅一郎・泉　龍太郎……198

哲学コース

社会哲学特講……中澤　　瞳……201
哲学史特講……齋藤　宜之……204
宗教哲学特講……石浜　弘道……207
科学哲学特講……大熊　圭子……210
生命倫理学特講……泉　龍太郎……213
社会思想史特講……岡山　敬二……216

心理学コース

心理学史特講……荒川　　歩……219
心理学研究法特講……眞邉　一近……222
認知心理学特講……山本　真菜……225
認知心理学特講……木村　　敦……228
社会心理学特講……和田　万紀……231
産業・組織心理学特講……田中堅一郎……234
臨床心理学特講……菊島　勝也……237
医療心理学特講……飛田伊都子……240
行動分析学特講……小野　浩一……243
コミュニケーション心理学特講……眞邉　一近……246

教育学コース

生涯学習論特講……古賀　　徹……249
学校教育学特講……北野　秋男……252
学校教育学特講……黒田　友紀……255
教育心理学特講……時田　　学……258
教育臨床学特講……井上　雅彦……261
生徒指導論特講……柴山　英樹……264
教育評価論特講……藤田　主一……267

医療・安全学コース

健康科学特講……泉　龍太郎……270
安全学特講……荒関　仁志……273
人間工学特講……泉　龍太郎……276
環境生理学特講……泉　龍太郎……279

医療・安全学コース

スポーツ運動学特講……小山　裕三……282
スポーツ医学特講……布袋屋　浩……285
スポーツ心理学特講……種ケ嶋尚志……288
コーチング学特講……鈴木　　典……291

専攻共通科目

調査分析特講……田中堅一郎……294
統計基礎Ⅰ……荒関　仁志……297
統計基礎Ⅱ……荒関　仁志……300
ゲーム理論……荒関　仁志……303

特 別 研 究

国際情報専攻

加藤　孝治　教授	専門分野：小売産業・小売企業，競争戦略，組織論，流通の仕組み，ファミリービジネス

特別研究の研究領域

小売産業・小売企業を対象にした研究をしています。当初は，競合環境の中での小売企業の競争戦略や組織を強くするための組織論（人的資源マネジメント），あるいは，流通の仕組みの変遷などに焦点を当てた研究に取り組んでいました。その後，小売企業研究を深めていく過程で，国内外の有力な小売企業がファミリービジネスであり，また，日本には同族で歴史の長い長寿企業が多いことから，日本の小売企業の特徴としてファミリービジネスならではの強みがあるのではないかということに興味をもち，最近は，小売業界研究とファミリービジネス研究を組みあわせた領域を研究テーマとして取り組んでいます。

特別研究の指導及び研究上のポイント／特別研究の進め方

論文指導の難しさは，まず，そのテーマを決めるところにあります。これまで指導してきた学生の中で思い出深いのは，自分が何を研究したいのかを特定するのに時間がかかった学生です。自らのテーマ，問題意識に基づき大学院に進み，朧げにやりたいことは分かっているものの，その問題の本質を探るために，どのような研究の切り口で臨めばよいのかがわからなくなってしまいました。具体的にいえば，その学生は家業の役に立つ研究をしたいということで大学院に進んだのですが，いざ，研究に着手しようとすると，そもそも家業はどのようなビジネスなのかを正確に理解できていないことに気付き，事業環境もよくわからないというところからスタートしました。私は，その学生の指導にあたり，問題意識を正確に理解するための時間をたっぷりとって，それが明確になったうえで，論文指導をすることにしました。最後は時間との戦いになりましたが，問題意識が固まったことで，研究内容は目的に沿ったものになっていったように思います。

中村　良　教授	専門分野：経済法（独占禁止法，不正競争防止法，景品表示法）を米国法と比較しながら研究しています。当初は「大企業」を研究対象としていましたが，今は「中小零細企業」の視点から経済法を研究しています。

特別研究の研究領域

経済法（独占禁止法，不正競争防止法）を研究領域とします。

特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマと問題意識を見つけ出すことが，研究において最も大切だと思います。日頃から問題意識をもって，生活してください。新聞を読んでいるとき，ニュースを見ているとき，おかしいなと思ったらそれを調べて下さい。一生付き合えるテーマが見つかるかもしれません。

特別研究の進め方

まず，テーマについて相談させて頂きます。テーマが決まったら，我が国における問題点について検討します（先行研究，関連判例を収集・検討）。この段階で問題点，問題意識が整理しておきます。ついで，米国における類似の制度と比較しながら解決方法を探ります。米国法については，米国法の特徴を概観し，それから判例を丁寧に読んでいきます。

陸（りく）　亦群（ゆうぐん）　教授

専門分野：国際分業と経済開発，産業集積と地域経済，経済開発戦略

特別研究の研究領域

本特別研究では，国際通商政策，経済活動のグローバル化と地域経済を主な研究領域とする。

国際通商政策の歴史的推移，世界経済のグローバル化の進展と新しい国際分業の出現，産業集積そして企業生産活動のグローバル化といった要因に着目し，地域経済問題，国際経済問題に対してグローバルなアプローチ，すなわち地球規模の政策視野をもって理論的実証的な分析を通して考察することを目指したい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し，研究課題を決定する。研究計画を作成し，それに即して研究指導を行うが，国際貿易と経済開発の分析視点に立って，理論と実証の両面から国際経済政策を分析する研究能力の育成を目指す。

特別研究の進め方

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

① 研究テーマの選定
② 研究計画の作成
③ 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
④ 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
⑤ 研究方法の策定と資料収集
⑥ 研究内容を具体化し，論文作成に着手
⑦ 論文の構成案を作成し，中間報告
⑧ 論文の草稿を作成し，中間報告
⑨ 修士論文の完稿

前野（まえの）　高章（たかあき）　准教授

専門分野：国際貿易と経済開発，通商政策と貿易障壁，グローバル化と国際制度

特別研究の研究領域

本特別研究では，国際貿易と通商政策およびグローバル化と国際制度の進展を主な研究領域とします。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化，企業の海外進出に伴う国際分業の変化，国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響，国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目して，理論的・実証的・政策的など幅広い分析視点から，グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指します。

特別研究の指導及び研究上のポイント

国際経済政策を分析する研究能力を育成することを目標とします。研究課題は大学院生自身が考えている問題意識と学術的な研究意義の両面から決定していき，国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みます。興味のある研究分野や研究対象が国内経済や地域経済，多国籍企業や中小企業であっても，グローバル経済という研究観点を取り入れて専門的に研究を進めていきます。

特別研究の進め方

はじめに，ゼミでのディスカッションを通じて自分にとって興味のある研究テーマと関連するキーワードについて明確にしていきます。次に，問題意識と研究意義を再検討するために，研究テーマに関する先行研究や専門的資料などを数多くサーベイしていきます。サーベイしたものは要点を簡潔にまとめ，ゼミで報告をするようにします。以上のことが整理されたら，研究論文での仮説構築と分析手法について固めていき，最終的に論文の作成に取り組みます。状況に応じて進め方は変化するかもしれませんが，ゼミでのディスカッションを常にベースとして研究論文の作成を行っていきます。

丸森　一寛　准教授

専門分野：経営政策・競争戦略・経済性分析・財務管理・会計管理・税務・監査

特別研究の研究領域

経営全般，特に戦略，ファイナンス，アカウンティングに関係する分野を研究領域としており，できれば実際の企業経営に何らかの示唆を与えるようなテーマを歓迎します。

特別研究の指導及び研究上のポイント

企業経営や実務との関係を常に意識した研究および指導を行いたいと考えています。具体的には，担当科目および特別研究を通じて，学生の実務経験や問題意識が修士にふさわしい研究に結びつくように，ともに考えていきたいと思います。

特別研究の進め方

各自の問題意識を尊重し，相談の上で研究課題とスケジュールを設定します。その後，先行研究の批判的検討から，仮説の構築，仮説の検証，研究結果と提言に至るまでの各フェーズに沿った指導を行います。各自の研究についてゼミ生同士の意見交換ができるように，なるべく多くのゼミ生が同じ時間を共有するように特別研究を進めたいと考えています。

安藤　貴世　教授

専門分野：国際法

特別研究の研究領域

特別研究においては国際法全般を研究領域とし，可能な限り広範に対応する。国際法の総論的な部分をはじめ，国際人権法，国際刑事法，武力紛争法，国際安全保障をめぐる国際法，空間の規制に関する国際法（海洋法，空域・宇宙など），国際組織法，国際環境法などにいたるまで，対象分野は多岐にわたる。今日の国際社会において日々生じる様々な諸問題や事象が国際法を枠組みとしていかに調整・規律・解決されているかという点について研究を進めていく。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識，関心領域，さらには主体的な研究姿勢を尊重しつつ，教員と相談のうえ，研究テーマを決定する。研究テーマ決定後は，先行研究の整理･分析，研究手法および論文の構成の策定，関連資料の収集・読み方，論文執筆に至るまで，その都度指導を行う。

特別研究の進め方

基本的に以下の①～⑨のプロセスで研究指導を行うが，スケジュール等については相談のうえ決定する。オンラインでの指導が中心となるが，適宜，面接指導を行うほか，合同のゼミや，日程上可能であればゼミ合宿なども行う予定である。①関心領域における研究テーマの候補選定，②研究テーマおよび研究方法の決定，研究計画の作成，③研究テーマに関する参考文献リストの作成，④先行研究の内容の整理･分析，⑤論文の構成の作成と関連資料の収集，分析，⑥論文構成案に関する中間報告，⑦研究内容を具体化し，論文を執筆，⑧論文の草稿に関する中間報告，⑨修士論文の完成

川中　敬一　教授

専門分野：軍事戦略思想（特に，孫子，毛沢東及びマハン），当今中国の軍事戦略，米中関係と世界，中国の国防・治安法制度

特別研究の研究領域

※中国の各分野における危機的現象を伝統的思想と中国共産党の理論とを尺度として，現今中国を等身大に理解する。

※中国を基軸とした国際情勢の歴史的経緯から，各種危機的現象の本質を理解する。

※軍事的観点から，各分野の危機的現象の背景と意義を理解する。

※中国に関連する軍事・治安上の危機的現象を外部世界（特に，欧米）との関連で理解する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

中国共産党および中国国民党の政治的・文化的理念（特に，19世紀中葉以降の歴史的経緯）と，各種の危機的現象との関連を考察することを推奨する。この手法により，学生諸氏の思考と情緒を中国人のそれに疑似投影して，中国（人）の表層的言説には現れない深層的衝動を理解する素地を築く。その上で各学生諸氏の関心事に対する考察を進めるよう指導する。

また，各種現象において，台湾および米国の中国の意志決定に対する作用を常に考察に加えるよう指導する。

特別研究の進め方

入学までに「2年間（実質的には1年半余）で何を明らかにしたいか」を確立することが前提となる。また，入学と同時の論文仮執筆開始が肝要である。具体的には，以下の要領で論文作成を遂行する。

①関心の所在報告，②『人民日報』通読，③中国を基軸とする近代史概要把握（推奨資料通読），④途中報告（隔月1回を標準），⑤②～④と同時に論文執筆，⑥中間報告（第1年次末），⑦最終的修士論文作成・草稿，⑧修士論文完成

瀧川　修吾　准教授

専門分野：日本政治史・日本政治思想史

特別研究の研究領域

日本政治史研究のアプローチ方法は様々です。担当教員の経歴を考えるに，対象とする時代は，幕末から昭和までが望ましいです（平成も対応できますが，古代や中・近世は荷が重いです）。つぎに内容ですが，特定の事件や制度，政策，組織，人物の他，日本が対象ならば外交や地域，思想を対象とする研究も歓迎いたします。むろん史料研究自体は行いますが，私は史学科卒ではないため，専ら古文書の解読を学びたいという方は，遺憾ながら他をお探し下さい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

皆さんが各々に選択する研究テーマにより，ポイントは変わってくるものと思われますが，修士論文の完成を第一に考えるならば，入学までにある程度，興味関心を整理しておき，早々に優れた先行研究と出会うことが必要です。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが，２年間は一瞬です。年限を気にせず学問と向き合えれば理想ですが，まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ，どうしても心残りがあるならば，それらは博士課程で取り組みましょう。

特別研究の進め方

まずは皆さん自身が研究テーマを決め，指導を受けつつ，必要な参考文献や資料を収集し，論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが，通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずです。大抵は欲張りすぎて，一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが，これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは，自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし，今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては，周辺を広く学びつつ，これだというピンポイントを見定め，深く掘り下げると良いでしょう。

文化情報専攻

清水（しみず） 享（とおる） 教授

専門分野：西南中国民族研究

特別研究の研究領域

中国雲南省や四川省のさまざまな民族を中心として東アジアと東南アジア大陸部のフィールドから，文化，社会，歴史の研究について対応したいと思います。歴史学，文化人類学，考古学などの学問分野からのアプローチの方法を指導します。研究課題は複眼的な視点による学際的研究や地域研究を進めるものでも構いません。

特別研究の指導及び研究上のポイント

自ら関心のある研究課題を設定し，その課題に一つの解答が出るように指導を進めます。各研究分野の基礎的な思考を学び，広い視点で研究課題を分析考察できるようにします。先行研究の把握，資料収集の方法を経て課題の分析考察を進めます。修士論文作成については理論上の問題がないよう丁寧な指導を心掛けます。

特別研究の進め方

院生自ら研究課題を設定し，研究計画を立てます。研究アプローチの分野の方法論を把握しつつ，先行研究の整理を進めます。調査や資料収集の方法を検討し，データの蓄積を進めます。分析考察を進めつつ論文の構成を考えて，作成を進めます。課題設定から執筆までその都度，E メール，サイバーゼミ，面接授業，面接指導で論文の指導を進めます。

山崎（やまさき） 眞紀子（まきこ） 教授

専門分野：日本近現代文学

特別研究の研究領域

言文一致体へと移行する明治 20 年以降，現在までの日本文学を対象とする。つまり，現在使われている日本語で書かれた文学作品を研究していくのであるが，言葉はその時代の文化や歴史を内包し，哲学，異言語との差異化，人間の無意識，心の動きなどから育まれた思想によって生み出されたものであることを踏まえ，隣接した学問領域である文化，歴史，思想，心理などを射程に入れて研究を進めていく。上述した期間の文学作品であれば，広い領域での研究に対応する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは何に興味，関心を抱いているのかを見極め，何を知りたいと思うのか，具体的に説明できるようになるまで丁寧に指導し，そのうえで，知りたいことの核心を極めたうえで，研究テーマを設定していくように導いていく。研究テーマが決定したら，文書資料のみならず映像資料やフィールドワークも踏まえた資料収集の方法を指導する。各研究会，関連学会への導きを行い，研究方法の見聞を広めるて機会を多くもつための情報を提供する。

特別研究の進め方

1 年次の前期は文学研究の方法を学ぶ。ますは文学理論の概論を理解することをめざし，そのうえである方法を選び，具体的な作品を挙げて分析していく。後期は受講者の興味のある作品に寄り添い，どのような方法で分析していくかを検討したうえで，研究対象と目的，方法を明確にし，研究計画書をまとめる。研究対象が決定したら，先行研究を徹底的に読み，ポイントをつかんだうえで，自らの方法との差異を見極め，自分のオリジナリティを明確にしていく。

2 年次は論文執筆準備に入る。大切なのは問題提起であり，何を解き明かそうとするのかを明確化させ，それを解明していくにはどのような方法をとるのか，結論はどのように予測できるのかを見極めたうえで，6 月中旬までに論題，構成を決定し，文書にまとめ提出する。それをもとに検討を重ね決定し，7 月下旬までに先行研究を収集し，8 月下旬まで研究史をまとめる。9 月初めから執筆を始め，その成果を中間発表（10 月中旬）で行い，指摘を受けたことを踏まえ論文の第一稿ものをとしてまとめる。

秋草俊一郎（あきくさしゅんいちろう）　准教授

専門分野：比較文学，翻訳研究，英米文学，ロシア文学，世界文学

特別研究の研究領域

ロシア・欧米・日本の言語文化，文学研究，翻訳研究，出版文化であれば可能なかぎり対応したい。以下に講師の具体的研究例をあげる。

1）世界文学カノン：日本や欧米の世界文学カノンがどう移り変わってきたかを，世界文学全集などを分析することで検討する。

2）自己翻訳：ウラジーミル・ナボコフをはじめ，サミュエル・ベケット，ミラン・クンデラ，西脇順三郎などに見られる self-translation の方法とその可能性を作品の分析や翻訳理論の適用によって検討する。

3）ナボコフとアメリカの出版文化：『ロリータ』を出版したことで知られるナボコフと，出版社の関係およびその受容を主に渡米後に編集者とのあいだにかわした書簡や出版資料から分析する。

上記のほか，文芸翻訳を翻訳研究の実践の一環としておこなっている。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ，修士論文を完成できるよう指導する。研究課題の選定，資料収集，論旨の確定，議論展開，論文執筆と段階的に指導を行う。それぞれの関心にもとづき，国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求める。

特別研究の進め方

1年次は，各自研究課題についての情報・文献を収集し，問題意識を精緻な，アカデミズムで通用するものにしてほしい。

前期：演習をふくむ授業に参加しつつ，各自の研究課題を絞りこみ「論旨」を作成する。後期：問題設定のもと，リサーチを開始する（資料収集・分析・整理）。一次資料および先行研究の精読をおこなう。同時に，えられた成果をもとに問題意識の再設定と「論旨」の改訂を重ねてほしい。リサーチの成果を年度末に提出する。

2年次では，「論旨」から論文概要の作成に進み，研究対象の分析と考察を本論として執筆し，修士論文を完成させる。早目に第一稿を提出してもらい，revise に十分な時間をかけるよう指導する。

前期：「論旨」確定，論文概要作成，序論，本論の執筆と段階的に作業を進める。後期：序論，本論，結論を含む第1稿提出。研究（中間）発表会（10月）。改訂，推敲，編集作業。第2稿提出。修士論文提出（翌年1月）。

リポート提出システム，サイバー・ゼミ，サイバー講義，e-mail を活用して指導を行う他，グループ面接および個別指導を行う。

野口（のぐち）　恵子（けいこ）　教授

専門分野：日本古代文学，日本古代文化

特別研究の研究領域

主に，日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを，日本国内における問題として捉えることもあるが，東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究，つまり平安時代，鎌倉時代，室町時代，江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で，高等学校の国語科教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して，専門的な立場からその適否を評価し，今後のあるべき方向を提言する，もしくはどのような事情で教材となったのか，その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

特別研究の指導及び研究上のポイント

院生にとっての修士論文は，それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って，院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし，限られた時間の中で成果を出さなければならないので，場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また，学外で行われている研究の現場を，自分の目で確かめることによって研究意欲が高まることがあるので，国内外で行われている学会発表，シンポジウム，講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は，その指導も行う。加えて，現地調査を奨励する。

特別研究の進め方

まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理，その内容に対する問題提起を繰り返してもらう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し，さらに考証を積み重ねた上で，最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらう。指導方法は，定期的な e-mail による指導が中心になるが，日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。

島田（しまだ）　めぐみ　教授

専門分野：日本語教育学，言語テスト，言語接触

特別研究の研究領域

日本語教育全般，社会言語学に関わるテーマであれば，できるだけ幅広く対応する。具体的には，教育現場における教授や評価の方法の検討，教材分析，言語テストに関する理論や実践研究，コードスイッチングなど社会言語学的現象の検討，日本語と他言語との対象研究，習得研究などが考えられる。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究には，適切な研究テーマを設定すること，研究を遂行するための方法に関する知識を持っていること，実際に行動する能力を持っていること，この３点が重要である。そのため，テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして，それぞれ関心のあるテーマにおいて，これらのことを実践し，修士論文を執筆できるよう指導する。

特別研究の進め方

一年次は，まず，それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ，自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また，同時に，研究方法（質的研究，量的研究，データ収集方法，データ分析方法など）について学び，適切な研究手法を選定し，研究計画を立てる。一年次後半には，データ収集をスタートさせる。二年次前半は，データ分析を行い，中間発表（10 月中旬）を経て，論文を執筆する。

保坂　敏子　教授　　専門分野：日本語教育学，言語文化教育，教育工学，視聴覚教育

特別研究の研究領域

日本語教育・日本語学習者支援をめぐるテーマであれば，国内・海外を問わず，特定の教育現場や学習者に特化した問題についてできるだけ幅広く対応する。また，日本語教育の方法論や育成すべき言語能力自体の検討，国語教育や他の外国語教育との比較など教育学的な研究だけでなく，異文化語用論や学習者の誤用分析など言語学的側面も可能な限り対応する。さらに，文化を重視した言語教育，ICT を使った言語教育，自律的な言語学習をテーマとする場合，日本語以外の外国語の教育でも対応する。

特別研究の指導及び研究上のポイント

それぞれ自分の関心のある研究課題を設定し，自律的に資料収集や論文作成取り組むとともに，テレビ会議や掲示板を用いて，研究の計画，遂行，論文執筆の過程で，段階的にお互いにコメントをし合う協働学習を実践する。協働学習と教員の指導を基に，自身の研究計画や研究内容を振り返り，論文の推敲を行って，論考を深めること。また，関連の国際会議やシンポジウムなどの情報を共有するので，積極的に参加し，研究の方法や論考の深め方などについて広く学ぶこと。

特別研究の進め方

一年次は，前期に研究の進め方を学ぶと同時に，自分の研究テーマについて先行研究をレビューし，自分の研究課題の位置づけを検討する。後期には，テーマを絞り込み，研究の対象と目的，方法を明確にして研究計画書をまとめ，これに沿って各自文献，アンケート，インタビュー，フィールドワークなどデータの収集を開始する。二年次は，前期にデータ収集を終了させ，分析・整理する。後期の中間発表（10 月中旬）でそれを発表した後，論文の第１稿を作成し，11 月中旬にゼミ内で発表する。そこでのフィードバックを基に論文を推敲し，第２稿を作成。指導教官の確認を受けて，最終稿を作成して提出する。

田嶋　倫雄　准教授　　専門分野：英語教育学

特別研究の研究領域

第二言語習得または英語教授法の研究である限り，可能な範囲で広範に対応する。大枠の研究テーマ例として，外国語習得の学習者観察と分析，学習者の情意面からみる外国語学習，効果的な学習方略を念頭においた外国語教授法，グローバル化を考慮した産官学連携外国語教育，国際英語としての英語教育など，英語教授法に係る範囲で課題を設定し，実際にデータ収集し精査・分析をする。

特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が研究テーマを設定し，先行研究および資料を包括的に読解，データ収集，分析，論文執筆に取り組んでもらいたい。できるだけ多く調査・検討し，総合的・分析的・探索的・演繹的研究において自分の立ち位置を明確にし，統計手法を用いて分析し，論文にまとめていくように実施すること。また，関連する学術会議への出席や口頭研究発表を促すので，積極的に参加し，多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

特別研究の進め方

第１年次は研究テーマの絞り込み，先行研究収集と精読，研究計画を作成する。５月末までに興味のある事柄の概要を決定，６月末に主要な先行研究のリスト，８月末に文献調査結果の概観をすること。10 月下旬には研究テーマを仮決定し，11 月下旬に試行研究調査計画書の提出，２月中旬にその結果を提出すること。第２年次には，論文の概要決定，データ収集と分析，論文の完成へと進めていく。４月初頭に論文概要を提出し，５月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果（予想）から成る簡易草稿を提出する。６月下旬までにデータ収集を完了し，分析の後７月中旬に図表提出をすること。８月末を第１回草稿提出の締め切りとし，９月下旬から 10 月にかけて前期課程研究（中間）発表会を行う。10 月末を第２回草稿提出締め切りとし，12 月下旬には修士論文提出とする。尚，教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し実施し，修士論文を完成させ提出すること。

人間科学専攻

大熊　圭子　准教授

専門分野：科学哲学，ロジカル・シンキング

特別研究の研究領域

科学・技術に関するもの一般，科学史，現代倫理学，ロジカル・シンキング，これらを対象とするものが望ましい。物理学や環境論などでも，哲学的に論じるのであればかまわない。

特別研究の指導及び研究上のポイント

必ず，なぜそのテーマにしたのかという点を明確にした上で研究をスタートさせることが必要である。またテーマについて，様々な視点から眺めて検討すること，それを論理的に展開・表現することなどについても指導していく。

特別研究の進め方

・１～２カ月に１回ペースで面接授業を行う予定です。それ以外は，適宜メールなどを活用して指導します。

・１年次の夏までには研究テーマを設定してもらいます。その後は進捗状況の確認及び修正を行い，各人に合わせて研究を進めてもらいます。

岡山　敬二　准教授

専門分野:現象学を中心とする現代哲学。おもに他者論や心身問題。

特別研究の研究領域

哲学的な考察が要求される問題をテーマとし，西洋哲学，とくに20世紀以後の西洋現代哲学の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマを選択した動機や問題意識を整理し，その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し，基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ，それについて独自に解釈，批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして，先行研究との比較・検討を通じて，そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方で提示できるように指導してゆく。

特別研究の進め方

インターネットでの指導・対話を基本とするが，適宜，状況に応じて面接等の機会を設けてゆく。

・１年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し，必要な文献を検討，収集してゆく。

・１年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。

・２年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。

・進捗状況に応じ，適宜，対応を重ねてゆく。

田中　堅一郎（たなか　けんいちろう）教授

専門分野：産業・組織心理学，社会心理学

特別研究の研究領域

組織や職場での不公正・不公平感の諸要因とその心理学的影響を中心とする研究テーマ。

1．従業員が職場で行う自発的な役割外行動
2．公平（あるいは不公平）な処遇が従業員の行動に及ぼす影響
3．公正な人事評価を阻む心理的バイアスの種類とその対処方法（多面的観察評価法など）
4．職場における従業員の問題行動（職場いじめ，セクシュアル・ハラスメントを含む）
5．目標管理制度についての心理学的研究

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマがどのようなものであっても，心理学の基礎知識や基本的な研究方法の習得は欠かせません。したがって，2年間はだいたい以下のような計画で研究を進めるとよいでしょう。1年次の前半では，研究テーマに必要と思われる心理学研究法を学習してください（特に，学部で心理学を専攻しなかった方は必須です）。後半では，自分の研究テーマに関連する論文の収集を行ってください。論文の入手法も適宜教えます。論文の収集は，研究テーマに関連した数多くの文献にあたることが望ましいでしょう。研究テーマに問題や修正が生じたときには，個人面談か随時 e-mail で相談しながら進めます。1年次までにやるべきことはかなり多く大変ですが，何とか乗り切ってください。

2年次の前半では，具体的な研究計画の作成と実験・調査などのデータ収集を行ってください。後半でデータの分析を行い，論文執筆に取りかかります。この際，論文の書き方については，都筑　学『心理学論文の書き方　おいしい論文のレシピ』（有斐閣）が必読です。データ分析については，論文作成に必要な統計的手法を自分で修得しなければなりません。論文作成の過程では，書式や分析方法の細かな指導を行うつもりです。

特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが，夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施したいと思います。可能ならば2泊3日のゼミ合宿で研究発表会を実施したいと考えています。計画の詳細は以下のとおりです。

1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め，研究方法についての学習。同時に，関連文献の収集。
1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。
2年次（前半）：研究テーマと研究計画の再確認（計画の一部修正も可）。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
2年次（夏期）：ゼミ合宿の開催。中間発表を行う。
2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック，最終稿作成，修士論文の提出。

和田　万紀教授　　専門分野：社会心理学，教育心理学

特別研究の研究領域

自己と対人関係，不安，情動と行動，などをキーワードとして，心理学を基本とした研究領域を対象とします。

特別研究の指導及び研究上のポイント

自分が何に興味があり，何をしたいのか，をまず明確にすることから始めます。その後，それをどのように心理学の方法で行うのか，を考えます。そしてそれを具体的に研究として進めるために，必要な資料，文献等の講読から，実際にデータの収集，整理，分析を行い，考察を行います。論文としてまとめる，という作業も大事にしたいと思います。

特別研究の進め方

1．１年次夏休みを目安にテーマを具体的に絞り込みます。後期には研究遂行に必要な資料，論文等の収集を行い，まとめます。
2．研究方法についての基礎知識の獲得と，具体的な実施方法を検討します。
3．２年次初めに，研究テーマと具体的な研究実施計画の確認を行い，データ収集を行います。
4．２年次後期に，データの検討，考察を行い，論文執筆に取りかかり，修士論文を仕上げます。
5．可能な限り直接的コミュニケーションをとりたいと思いますので，面接，合同ゼミナール，等の手段を計画します。積極的に参加することを望みます。

木村　敦准教授　　専門分野：認知心理学 , 社会心理学 , 色彩心理学 , 教育工学

特別研究の研究領域

「人間の認知特性を踏まえた情報コミュニケーション」と，その応用として以下のような領域に関する研究課題を扱っています。

(1) リスクコミュニケーション
(2) 消費者行動・商品選択
(3) インタフェースデザイン
(4) 学習支援・教授法
(5) 食卓環境デザイン

特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは大学院での目標や研究興味，現状の知識や技能について個別にヒアリングし，具体的な研究計画を自分で立案できるよう必要なサポートをしていきたいと思います。どのような研究課題を行う場合も，先行研究の収集，適切な心理学的研究法や統計解析の選択，論文執筆・プレゼンテーション作成スキルは不可欠ですので，これらのリサーチスキルの指導を中心に行います。また，可能な範囲で国内外の学会や研究集会への参加も奨励します。なお，実際に作業する上ではワープロ，表計算，プレゼンテーション，描画・画像編集などソフトウェアを使用します。これらのソフトウェアの基礎的な操作は履修時までにできるようになっていることが望ましいです。

特別研究の進め方

受講者の学修環境に応じて，ネットワークや面談を活用しての指導を行います。また，夏期・春期休暇期間などを利用し，各自の研究に関する面談指導やグループ討論，プレゼンテーションなども適宜実施したいと考えています。具体的なスケジュールについては個別に相談の上検討します。

１年次前期：研究課題の候補立案。先行研究の収集・整理。研究方法の習得。
１年次後期：研究課題の決定。研究計画作成。倫理審査書類の実施。経過発表。
２年次前期：実験・調査の実施。データ解析。経過発表。
２年次後期：データに基づく考察と，必要に応じて追加のデータ取得。修士論文の執筆・提出。最終発表。

古賀（こが）　徹（とおる）　教授

専門分野：国際教育，学習論，教育方法論

特別研究の研究領域

1．「教育」・「学習」に関する研究。とてつもなく広い領域ではあるが，その考察・調査の対象における「“学習”のもつ意味」を問うもの。（例：PISA 型学力と新しい学力観，etc）
2．制度的な研究。歴史的な研究。比較考察の視点を含む考察。（例：近代日本における教員養成課程の変遷，インターナショナルバカロレアに関する比較研究，etc）
3．方法・評価に関する研究。（例：ヴィゴツキーの活動学習理論，etc）
4．地域における特色のある教育。（例：横浜市における教育型青少年ボランティア活動，ヘルシンキのデイケア・スクールのカリキュラム変容について，etc）

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマの設定と，その考察により“何を明らかにしたいのか”を固めていくことが大事です。“（期間内に）どこまで明らかにできるのか”“どのような方法ならば導き出せるのか”という方法論・評価の視点や，先行研究の探索が重要です。すぐれた先行研究，テーマは異なっても視点の重なる研究（ヒントになる研究）を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。自分が明らかにすべきテーマは何か？　資料の読解力，論理の展開と構成（文章），調査の方法に慣れるために，研究書（文献）を読むことをおすすめします。

特別研究の進め方

・１年次の早い時期より，研究の視点や研究のペースについて面談やネットワークをつかっての相談を開始する。
・夏期・冬期，春期休暇を活用して，面接指導を実施する（研究室への来室はいつでも歓迎いたします）。
・２年次の夏期休暇中には２泊３日の合宿を行い，修士論文の中間発表（作成計画や概要）を実施し，論文作成計画を完成させる。冬期休暇中には修士論文の内容について最終発表会を実施する。

柴山（しばやま）　英樹（ひでき）　准教授

専門分野：教育思想史，教育哲学，教育メディア論

特別研究の研究領域

研究領域は，教育の方法に関する思想史研究，学習指導や生徒指導に関する理論やその比較研究，教育メディアに関する理論的研究などである。

1．教育の方法やカリキュラムに関する思想的・歴史的研究：教育方法やカリキュラムの理論と歴史
2．生徒指導や道徳教育に関する理論・歴史・比較研究：人間形成，道徳教育，いじめ，不登校など
3．教育メディアに関する理論的研究：教育におけるメディア及び教材に関する理論的研究

特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは，研究テーマについて改めて深く検討し，関連する文献（図書及び雑誌論文）を収集することです。次に，収集した先行研究を批判的に検討し，自分の研究課題を明確にします。研究課題を設定する際に，歴史的・思想的な視点や比較研究の視点などから検討することで，研究の方法についても考えていきます。研究論文は，文献や資料などを手がかりに自分の主張の根拠を示すことが不可欠ですが，自分で問いを立て，自分で考え，自分の言葉で語ることという基本を大事にしてください。

特別研究の進め方

・１年次は，各自の研究テーマについて検討しながら，論文作成の手順や方法を学び，論文作成の準備を始める。指導の際には，面接やネットワークによる対話を併用する。
・２年次の夏期休暇中には，各自の論文の作成計画や実施内容についてゼミで発表し，論文作成計画を完成させる。
・２年次の冬期休暇中には，ゼミで最終発表会を実施し，修士論文の内容を発表する。

時田（ときた）　学（がく）　准教授	専門分野：教育心理学・ロール・プレイング・コミュニケーション・生理心理学

特別研究の研究領域

「人間の行動」を対象とした「心理学的」な研究であることと，何らかの形で「教育的」な要素があることが望ましいと考えます。この場合の「教育的」とは比較的広範囲に考えていただいて構いませんので，所謂学校教育ということにとどまらず，職場内の教育や成人を対象にした教育，地域の中での教育（人育て）なども対象となると考えます。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題は基本的に教育心理学的課題に関連する部分が多くなると考えられますが，どんな研究課題を選択されたとしても，論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終的な目標になります。そのためには，自らの研究する研究課題を大切に吟味することが必要になります。吟味するためには，設定した課題について，関連すると考えられる資料を十分に集めることは勿論のこと，その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することは必要不可欠なこととなります。それらの資料は書籍にとどまらず，その分野の専門的な論文を読みこなすことも求められます。またその研究課題の解明のためには，現実世界の中で課題解決に適切なデータを収集し，収集されたデータを基に解析し，結果を研究課題と検討し，解釈することができなくてはなりません。そのためには，心理学の各分野の知識はもちろん，統計的な知識も重要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが，メールのやり取りだけではなく，リアルなフィールドの中で様々な場面を設定し，必要な研究指導を実施致しますので，予定の調節など必要な調整をお願いします。実際に場所と時間を設定して，面接・サブゼミナール（基礎学習のため学部ゼミナールへの出席）・合同ゼミナール・合宿を実施致しますので履修者の皆様の積極的な参加を求めます。

特別研究の進め方

①１年次前期　研究課題の設定に必要な展望的研究，先行研究・関連資料等の資料収集，研究方法の検討。
②１年次夏季　面接・ゼミナール合宿等で，研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
③１年次後期　必要な調査・実験などの計画と予備調査などの実施，資料収集継続。
④２年次前期　研究課題・研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
⑤２年次夏季　データ分析とゼミナール合宿での中間発表。可能であれば論文執筆。
⑥２年次後期　分析された結果についての検討と論文執筆，原稿チェック，最終稿作成，論文提出。

荒関　仁志教授

専門分野：安全学，人工知能，進化計算，教育支援システム開発

特別研究の研究領域

人工知能や統計計算などの数理モデルを応用した安全学に関する分野。または，リスク管理や安全教育のための支援システム構築に関する分野。

例えば以下のような研究課題が考えられる。

1）安心・安全における事例発生の統計的処理の研究
2）ベイジアンネットワークの利用によるリスク管理手法の研究
3）適応型人工知能を応用した最適行動の研究
4）リスク管理のためのデータベースの開発
5）ヒヤリハットを疑似体験させるための教育支援システムの開発
6）安全教育支援のための電子教科書の開発

特別研究の指導及び研究上のポイント

人間科学の分野では，統計処理などの数理的取り扱いが重要であることは分かっていても，多くの学生が数理的取り扱いを苦手としています。本特別研究では，この数理的な取り扱いを，各自が十分に理解できるように指導します。また，初めは馴染みが少ない数理学的研究も，ゼミ等の議論を通じて各自が理解することを目指します。また，自分の研究テーマに関連したものだけではなく，様々な研究論文を読むことも必要となります。

特別研究の進め方

基本的にはメールやサイバーゼミを利用した議論を行いますが，各自の積極的な参加が重要となります。夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導を実施します。また，夏期の早い時期にゼミ合宿を行い，各自の研究テーマを深く理解するために，研究テーマに沿った議論を行います。

計画の詳細は以下の通りです。

1年次（前半）：研究方法についての議論と関連文献に関する検討。
1年次（夏期）：ゼミ合宿にて，具体的な研究方法の決定。
1年次（後半）：研究テーマに関する周辺研究の検討。研究方法の詳細の検討。
2年次（前半）：研究方法の詳細の検討。
2年次（夏期）：ゼミ合宿にて，各自の研究の進捗状況の報告と議論。
2年次（後半）：論文執筆。草稿のチェック，最終稿作成，修士論文の提出。

泉（いずみ）　龍太郎（りゅうたろう）　教　授	専門分野：健康科学，内科・産業医学，宇宙航空環境医学，生命科学

特別研究の研究領域

ヒトの健康の向上に関し，医療・福祉，産業保健衛生等，及び生命科学に関わる分野。例えば以下のような研究課題が考えられる。

1）健康診断データに基づいた，健康度の判定
2）QOL 向上のための工学的ツールの研究開発，社会制度の検討等
3）職場や日常生活におけるストレス度の判定，及びその軽減策の検討
4）医療に関連する各診療・治療ガイドラインの，実際の臨床応用に関わる問題点
5）治療やリハビリに対する本人の認識と意欲，及びその治療効果との関連
6）医療・介護現場における各種の手技のリスク・アセスメント，その対策と優先順位の考え方
7）中長期休職者が職場復帰する際の問題点と，その対応策の検討（身体・精神疾患の両者）
8）長期宇宙滞在等の極限環境における心身の問題点とその対策法の検討
9）生体・細胞の形態・恒常性維持に関わる物理化学的法則の検討

特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究課題を設定するにしても，人体の生理・生化学の基礎知識を踏まえることが重要です。医療分野では各種の診療に関し，ガイドラインが提唱されていますが，その基となっている研究・文献まで遡って考察することも求められます。臨床で現場を経験された方は，その時の体験や疑問に感じたことを出発点にすると良いと思います。ヒトを対象とした研究では倫理審査が必要となる場合がありますが，かなりの時間と労力を要するので，早めの準備が必要です。

特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが，夏期・冬期・春期休暇を利用して面接指導も実施します。また，夏期の早い時期に２泊３日のゼミ合宿を行い，研究発表を実施すると同時に，ゼミ生間の親睦を深める予定です。計画の詳細は以下のとおりです。

１年次（前半）：具体的な自分の研究テーマ・方法の決定と，研究方法についての学習。同時に，関連文献の収集。
１年次（夏期）：ゼミ合宿への参加，可能な範囲で研究計画の発表を行う。
１年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
２年次（前半）：研究テーマと研究進捗状況の再確認（計画の一部修正も可）。
２年次（夏期）：ゼミ合宿で中間発表を行う。
２年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック，最終稿作成，修士論文の提出。

小山　裕三　教授　　専門分野：スポーツ運動学

特別研究の研究領域

人間の運動の中でもスポーツにおける運動を研究対象とし，実際に行っている運動について直接観察を通してとらえられる運動の特性や構造を明らかにすることに力点を置きます。スポーツ運動学研究の中核的課題領域は，運動質，運動体系，運動発達，運動学習に関する理解，およびその理解をいかにして理論化することができるが課題となります。さらには運動の自然性や，優美さといった領域も研究課題になり得ます。

特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題を設定する上で，どのような運動を対象にし，どのような現象について研究するのかについて自身で精査しておく必要があります。また，スポーツ運動学研究では様々な方法論が存在することから，その方法論に関する知識を事前に修得しておく必要もあるかと思います。さらに，その方法論にインタビュー調査やアンケート調査が選択される場合には倫理審査が必要になる場合もあるので周到な準備が必要です。

特別研究の進め方

基本的にはレポート形式やネットワークを用いた対話形式を利用して研究を進めていきます。しかし多くの場合は実際に起こっている運動を研究対象とするため，その現場での研究に関する打ち合わせや面談指導等も行います。

鈴木　典　教授　　専門分野：コーチング学

特別研究の研究領域

コーチング学とは「体育・スポーツの指導実践に関する研究」を行う学問分野であり，個別科学の研究成果を評価し統合して，実践指導に活かす役割が求められます（朝岡正雄：体育学におけるコーチング学の役割，コーチング学研究 29，5-11，2016）。

このことから，先ず自身のスポーツキャリアを振り返り，先行研究を精査した上で体力面，技術面，心理面等，実践指導に関わる問題を提起します（研究の仮設を組み立てる）。その問題を解決するための研究方法を運動生理学，バイオメカニクス，スポーツ心理学等の個別科学領域から選択・実践し，得られた研究成果を実践指導に適用する方法について，さらに検討を進めるのがコーチング学の研究領域，および研究の進め方になります。

特別研究の指導及び研究上のポイント

コーチング学研究のポイントは「研究成果を実践指導に適用」するところまで，検討を進めることが必要であり，例えば研究成果をアスリートやコーチに解り易く（運動イメージとの照合が容易な方法で）フィードバックするまで，研究を継続することが求められます。また，各研究段階では自身のスポーツキャリアだけでなく，先行研究を精査した上で問題を提起すること，個別科学領域における研究方法やデータ処理方法を学修すること，研究成果を実践指導に活かす方法（フィードバックシートの作成方法，動画を用いたフィードバック方法等）を学修すること等が課題となります。

特別研究の進め方

基本的にはレポート形式，面接指導，ゼミ生間の研究発表やプレゼンテーション等により，研究を進める意向です。また可能な範疇で夏季，冬季，春季休暇期間を利用し，個別科学領域における研究方法の演習も実施したいと考えています。

1年次前半は先行研究（文献）収集と研究テーマの決定，研究方法の検討，夏季は研究方法の演習，基本的な統計処理方法の学修，研究計画の発表，後半から2年次前半は実験，測定，調査等，研究の実施（データ収集），およびデータ分析，夏季の中間発表を経て，後半は論文執筆（修士論文提出）といった研究の進め方を想定しています。

布袋屋（ほてや）　浩（こう）　教　授　　専門分野：スポーツ医学，整形外科学

特別研究の研究領域

競技スポーツにおけるケガや故障，すなわちスポーツ外傷・障害について，その競技特殊性を踏まえて，それらの発生原因，病態および予防対策をより具体化し明瞭化することで，結果的に競技力向上に役立てます。そのためには正しいフォームとはどういったものかを解明し体系づけることが大変重要です。

さらには，近年の超高齢化社会における一般スポーツの位置づけとして，健康寿命をのばすためには，つまり筋肉・骨・関節といった運動器の障害により生じる寝たきりや要介護状を改善・予防するためには，スポーツがどのように役立つのか，われわれの日常生活におけるスポーツの役割や有用性について研究します。

特別研究の指導及び研究上のポイント

スポーツ医学の分野においては，人体のしくみや運動生理，機能解剖の基礎的知識を理解しておくことが重要です。そして競技種目によってスポーツ外傷や障害の内容がかなり異なるので，競技特殊性を十分理解する必要があります。また競技レベルや年齢，性別，そして競技者が目指している目標によってもスポーツ医学のかかわり方が大きく違ってくるため，それらの特徴も十分に考慮しながら，競技力向上とスポーツ医学の関係について指導・研究していきます。

特別研究の進め方

基本的にはリポート形式やネットワークを用いた対話形式で研究を進めます。時にはフィールドワークやメディカルマネージメントとしてグラウンドやフィールドあるいはゴルフ場などで，スポーツ現場におけるメディカルケアに帯同し観察したり，選手自身へのアンケートや聞き取りをしたりして調査研究を行います。

種ケ嶋（たねがしま）　尚志（ひさし）　准教授　　専門分野：スポーツ心理学，臨床心理学，教育心理学，応用健康科学

特別研究の研究領域

スポーツ競技者のパフォーマンス向上に対する心理（信念体系など）が及ぼす影響についての研究，幼少期の愛着関係が及ぼす成人における問題行動や精神症状などへの影響・関連についての検討など。

1）スポーツ競技者のストレス度とパフォーマンスの関連性の検討
2）スポーツ競技者の信念体系が及ぼす勝敗への影響の調査研究
3）幼少期の養育者との関係性と成人の問題行動の関連性の検討
4）ボディイメージとメンタルヘルス関連要因の研究
5）変性意識状態とマインドフルネスとの関連

特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究テーマにするか，自分の興味・関心，探求したいテーマを見つけていきましょう。そのためには心理学の基礎知識や研究法が必須となります。特別研究は，文献の探し方，データ分析の行い方，論文の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は，心理学の研究法について習得し，テーマに関する論文の収集を行ない先行研究をまとめましょう。後半は，実験・調査等のデータ収集及び分析を行い論文を完成させます。

特別研究の進め方

受講生の学修環境に応じて，面談やネットワークを使っての相談を１年次から開始します。夏季・冬期・春期休暇を利用して，面接指導を適時実施します。

１年次：研究テーマの決定。研究計画作成。研究方法の習得。関連文献収集。先行研究まとめ。
２年次：研究計画再検討。実験・調査研究スタート。ゼミ合宿（予定）。中間発表。データ分析。論文執筆（論文指導）。修士論文提出。